

令和2年度第2回秋田県立博物館協議会（書面開催）要旨

1 書面開催について

県内での新型コロナウイルス感染症の新規感染者数が増加傾向であったことから、対面での会議を回避するため、書面開催とする。

書面開催の方法は、報告・協議事項について、協議会委員から意見を徴取し集約したものに、館の回答及び考えを付して会議録とする。

2 書面開催の出席委員 13名

荒川 康一 委員
大友 ひろみ 委員
加藤 薫 委員
後藤 節子 委員
酒井 宏彰 委員
佐藤 和実 委員（協議会副会長）
佐藤 はづき 委員
菅原 香寿美 委員
豊田 浩一 委員
西村 美智恵 委員
星崎 和彦 委員（協議会会長）
松橋 睦子 委員
森下 勢津子 委員

3 報告・協議事項及び意見を求める項目

(1) 報告事項

令和2年度事業経過及び令和3年度事業計画案について

(2) 協議事項

博物館における新型コロナウイルス感染症対策の取組等について

(3) 意見を求める項目

①令和2年度事業内容及び令和3年度事業計画案について

②新型コロナウイルス感染症対策の取組について

③コロナ禍の博物館に求めること

4 委員からのご意見・ご提言等、ご意見等に対する館の回答

①のうち「令和2年度事業内容について」	
委員からのご意見・ご提案等	館の回答
○「真澄遊覧記の公開」や「蓑虫山人展」といった貴重な資料の公開が限定的かつ小規模な形態となったのは残念、あらためて企画して欲しい。	●真澄遊覧記については、今後とも資料センターの展示を充実していきながらより親しんでいただけるよう努めていきたい。先のことではあるが、令和10年には真澄没後200年という節目の年を迎えるので、これまでの資料センターの調査研究を結集した展示が求められると考えている。 蓑虫山人は今回借用できなかった県内外の資料を借用したフルスペックでの展示を再度計画したい。
○特別展の代替展は収蔵資料によるものであったが、見応えのある内容であった。収蔵資料や県内の資料だけでも魅力的な展示ができ、郷土についてより深く知る機会になるのではないか。 博物館の底力を感じることでできた展示であった。	●今年度の特別展中止は苦渋の決断であった。そうした中でも職員が一致団結し、収蔵資料による代替展を、来館されたみなさまに喜ばれる形で開催できたことは非常に良かったと考えている。
○コロナ禍でも多くの来場者があり、県内外から支持され、関心を持たれていると感じる。	●大型連休中の臨時休館や、特別展中止という状況下でも昨年度比で7割を超える来館者（館外展示入場者を含む。）があることに感謝しつつ、この状況を真摯に受け止め、展示や普及活動の充実に努めていきたい。
○令和2年度事業経過報告にある「展示室の検証と展示室同士のネットワーク構築」とは、具体的にどのようなことを実施しているのか。	●来館者からの直接の意見や、アンケート等の提言などを基に問題点を洗い出し、調査や研修、体験により解決策を考え、見直しを行っている。 常設展示室、真澄資料センター・先覚記念室、企画展示室の間でフィードバックできる共通課題を設定し、ワークシートや資料解説などで関心を高められるよう努めており、また、展示内容の連携を検討中である。

①のうち「令和3年度事業計画案について」	
委員からのご意見・ご提案等	館の回答
<p>○博物館教室や講演会等は、県民に博物館を身近に感じてもらう上で重要であることから、今後も粘り強く続けていって欲しい。</p> <p>○分館（旧奈良家住宅）での「軒の山吹」再現ができることを期待する。</p>	<p>●ご意見のとおりである。コロナ禍にあっても出来ることを計画し、県民文化の向上に寄与したい。</p> <p>「軒の山吹」再現は、博物館ボランティアの会との連携活動の一つであり、ボランティアの方の期待も大きい。令和3年度もコロナ感染状況や県の指針を鑑みて実施を判断していく。</p>
<p>○全体的に前例踏襲、コロナ前と同じやり方を復活させている印象を受ける。コロナ禍の事業案であり、例年と同じ目標設定で良いわけがない。また、「コンテンツや情報発信の工夫について模索していきたい」とあるが、この段階は今年度で済んでいるのではないか。</p>	<p>●ご指摘のとおり、この1年は博物館を含む教育文化施設のあり方が問われ、変化にどう対応していくかが求められた1年であったと認識している。しかしながらそうした中であっても博物館が目指すべき目標、使命は不変であり、それを達成するためのアプローチについて創意工夫していくべきと考える。</p> <p>「コンテンツや情報発信の工夫」は今年度もコロナ禍の中で模索し一部は実践してきたが、感染症との対応の仕方や対策が明確になってきつつある状況下で、更なる検討創意工夫が求められていると考える。</p>
<p>○学習振興の取り組みで「修学旅行の積極的な受け入れ」とあるが現在のコロナ禍の目標として適切か、少人数のイベントに力を注ぐべきではないか。</p>	<p>●今年度は修学旅行で当館を訪れる県内の学校が多かった。コロナ禍が続く中こうした傾向が今年も継続することが予想されるので、県内の修学旅行対応をより充実させたいという趣旨である。</p>
<p>○来館者対応やイベントなどの多くが中止となったが、コロナに限ったことではなく、インフルエンザやノロウイルスなど集団感染への対応を今一度検討し、公の教育機関として実施可能なことは行っていくべきである。</p>	<p>●インフルエンザやノロウイルスの感染症対応については、マニュアルを定め運用しているが、今後、コロナを含む感染症対策として再点検する。</p> <p>コロナ対策の県方針を照らし合わせ、実施可能な事業を行っていききたい。</p>

委員からのご意見・ご提案等	館の回答
<p>○コンテンツや情報発信の仕方について、市民がダウンロードしていつでも勉強できる「ビデオ・オン・デマンド方式」のコンテンツを増やして欲しい。</p> <p>○魁新聞に連載記事があり楽しみにしているが、独自企画としてこのようなコラムをホームページに掲載したらどうか。</p> <p>○令和2年度は館外展示が3会場で開催されたが、地域によって来場者数に大きく差があるのはなぜか。地域に合わせた内容で連携展示ができれば、地元の人をもっと興味を持つのではないか。</p>	<p>●ホームページを活用して、収蔵資料の情報を発信する取り組みは重要であり、現在はデジタルアーカイブというコンテンツを使って資料を紹介しているが、もっと点数を増やし充実させるなど検討していきたい。</p> <p>コラムの掲載については来年度も継続して秋田魁新報に掲載の予定である。そうしたコラムをホームページに掲載することについても秋田魁新報社と協議していきたい。</p>
<p>○学校団体利用について小中学校の利用は増加している。遠距離の移動が制限される中、市内の小中学校に利用を促すような広報をして、博物館利用を定着させるような取り組みに力を入れてはどうか。</p>	<p>●昨年度から県内の修学旅行利用が増加してきた。近隣の小中学校を含めて、博物館の利用についての情報提供していきたい。</p>

②「新型コロナウイルス感染症対策の取組について」

委員からのご意見・ご提案等	館の回答
<p>○消毒等にも限界があり、利用者の自己責任において来館してもらえないとも思う。 私の勤務する施設では、換気設備がなく環境整備の修繕費が増加した。 消毒作業、受付対応、人数制限に伴い労力が増したが、今後はこれが日常として計画することが求められる。</p> <p>○博物館における新型コロナ対策のガイドライン改訂により一部緩和されたとあるが、基本に忠実な徹底した対策を今後も継続して欲しい。</p> <p>○マスクをしたままでの長時間の解説は困難と思われるので、解説内容を減らしたり、適宜休憩を取るなど無理なく行って欲しい。</p> <p>○非接触型設備への改修で安心できる。消毒作業について、テーブル等は上面だけでなく手の触れる部分など注意深く行って欲しい。</p>	<p>●当館においても、感染症対策の基本を忠実に、「体調不良者に入館をご遠慮いただくこと」、「手指消毒」、「マスク着用」、サーマルカメラ導入による「検温」、「連絡先の届出」を来館者に協力してもらい、施設の管理側としては、除菌作業の徹底と密にならない設備の配置や団体受け入れ人数の制限などを実施している。そのほか、国のコロナ対策事業を利用し、接触機会軽減のため、玄関引き戸の自動ドア改修やトイレ手洗器の自動水栓改修、展示室内映像等機器の押しボタンスイッチからセンサー式スイッチへの改修を行った。今後も、安心して博物館へ来館してもらえるよう継続して対策に取り組むと共に、日々の職員の健康観察や不足している感染症対策はないか定期的に点検していきたい。</p>
<p>○連絡先の届出について、会議資料に「ほぼ協力を得られている」とあるが、断られるケースの理由は何か。</p> <p>○来館者に陽性者が出ても、他の来館者が濃厚接触者となることはないのでは。ただし、イベント時は参加者に後日連絡が取れるようにする必要があると思う。</p> <p>○秋田県版コロナ安心システムの掲示が目立たないので工夫すべきである。</p>	<p>●個人情報の届出に抵抗があるとみられ、入館せず帰るケースがあった。 県内あるいは全国のコロナの感染状況と届出の使用目的を説明することで理解は得られているので、今後も丁寧な対応をしていきたい。 また、当館でも秋田県版コロナ安心システムの案内を掲示しているが、届出をするほぼ100%の方が届出用紙を記入している状況である。利用しやすい工夫をしていきたい。</p>
<p>○展示室の見学順路や間隔をとって見学できるような方法を考えて欲しい。</p>	<p>●特に団体受け入れ時には、一般の来館者との距離が取れるよう決まった順路でまとまって動くなど徹底していきたい。</p>

委員からのご意見・ご提案等	館の回答
<p>○どのくらいの頻度でどのような除菌をしているか来館者に伝わるようにすることも有効と考える。</p> <p>○コロナ対策の取組を各種媒体でアピールするなど、来館者が安心して来館できるようお願いしたい。</p> <p>○私の会社では、お客様の利用する設備や施設での消毒実施の様子を写真や動画を使ってビジュアルで伝え、安心感の醸成に努めている。また、社内会議でコロナ感染防止策の実施状況を定期的にチェックしている。</p>	<p>●当館においても、ホームページやフェイスブックなどでコロナ感染予防対策の伝えている。</p> <p>これからも来館者の知りたい情報と館が伝えたい情報をしっかりリンクさせて発信に努めていきたい。</p>
<p>○解説を必要とする来館者の要望に添えるような解説活動を継続して欲しい。長時間の解説が困難な状況とのことから、解説シートなど充実させる。</p>	<p>●少人数への展示解説を再開し、来館者から、解説を聞くことにより理解が深まり満足したという感想が多く、解説員のスキルアップにも繋がっている。今後も感染予防に注意しながら、解説業務を行うとともに、ご意見のあった解説シート等の充実も図っていきたい。</p>

③ 「コロナ禍の博物館に求めること」

委員からのご意見・ご提案等

- コロナの収束には時間が掛かると思うので、それまで資料の保管、事業計画案の策定など準備して行って欲しい。
- 待っていても来館者は増えないと思うので、博物館が静かに学習できる近いところにある穴場的な施設であり、安心安全な取組も実施していることをアピールして、多くの人に利用してもらえよう頑張ってもらいたい。
- ボランティアの会として、状況を見ながら、博物館教室やわくわくたんけん室の支援を継続したいと考えている。また、藍染めを行うチームとしては、「伝承」がテーマであることから、活動を継続していきたい。
- 学年を決めて「出前授業」をしていくなど、博物館に興味を持ってもらえるようにする。
- スマートフォンの普及を踏まえ、QRコードによる解説を増やしてはどうか。
対面や接触が難しい中、有効と思う。また、YouTubeを含め SNS を活用した情報発信の強化が必要。
- SNS を活用した情報発信を意識的に進めるべきである。貴重な収蔵品など YouTube で配信したり、学芸員がテーマ毎に解説する取組など強化してはどうか。
博物館の魅力をどう県民に伝えられるか工夫して行って欲しい。
- 攻めの姿勢でコンテンツの数を増やして欲しい。
- 収蔵資料をデジタルアーカイブ化して、広く全国の方々が見られるようにする意義は大きい。特に県固有の文化等に関する資料は、研究者のニーズもあるのではないかな。
公立の博物館だからこそできるのでないか。
- 公式 YouTube チャンネルの解説などにより、解説付き展示、講演会、博物館教室等を自宅でも楽しむことができるのではないかな。
- 博物館のツアーガイドのような動画を配信してはどうか。
- 博物館に来るのが難しい人のために、「わくわくたんけん室」のダウンロードアイテムのように、大人向けのアイテム（真澄、古文書など）を作成してみてもどうか。
- 徹底したコロナ対策実施により、安心安全な博物館を楽しめることを望む。
リモートでの情報発信やデジタルツール、他メディアとの連携などの取組は博物館のさらなるプレゼンスを向上させる上で有効と考える。

5 総括

令和2年度の博物館協議会では、8月に開催した第1回と書面で行った今回の第2回の両会で新型コロナウイルス感染症対策を協議事項としました。

4月に緊急事態宣言が発令され、その後事態が一時緩和傾向にあった時期に第1回の協議会を開催しました。その際、博物館におけるコロナ感染症対策は「感染予防」と「感染拡大防止」を主としており、その結果、展示会や博物館教室を含むイベント・行事の中止あるいは縮小、接触型展示設備の休止、わくわくたんけん室や検索コーナーの閉室をしていることなどを報告しました。これに対し、委員のみなさまからは、「すべてを禁止や中止にすることにより博物館の活動が縮小にだけ向かっていくことを危惧する」、「このような時だからこそ、この経験をプラスに変え、将来的に博物館が良くなる仕組みを構築してほしい」、「わくわくたんけん室のアイテムの作り方を YouTube にあげるなどしてほしい」などの前向きなご意見を頂戴しました。

その後コロナの第2波、第3波が起こり、秋田県の新規感染者数が増加したことにより警戒レベルも2から3に引き上げられたため、第2回の協議会は書面開催となりました。

前回の協議会以降、感染症対策を実施しながら、展示解説の再開やわくわくたんけん室の曜日と人数を限定した開室など順次行ってきました。また、学校団体のセカンドスクールの利用も前年度並みの利用があり、さらには修学旅行を県外から県内に替えざるを得ないという学校の利用もありました。このような機会をとらえ、博物館に興味を持ってもらえるよう受入を行っていきたいと考えています。ただ、お客様をお迎えするには、感染症予防対策は必須であり、検温装置の導入、非接触型設備への改修などの設備や備品整備を第一に行ってきました。したがって、委員の皆様からもご意見が多かった、SNSを活用した情報発信の強化や資料のデジタルアーカイブ化の更なる充実、スマートフォンを利用（QRコード）した展示解説などはこれからというところでもあります。委員の皆様の貴重なご意見を参考に、お客様に喜ばれる魅力ある取り組みを実施していきたいと思っております。